



## 学部長挨拶

学部長・教授 春山早苗

平成28年度の卒業生は、84名が看護師として、3名が保健師として、8名が助産師として就職しました。少子高齢社会である日本は、今後、人口減少が加速していく中で、2025年には2人で1人の高齢者を支える社会構造になると想定されています。この2025年問題を乗り越えるために医療制度の見直しが行われ、また病院から在宅への移行、あるいは妊娠から出産、育児へと切れ目のないサービスや、医療・育児／介護・予防・生活支援・住まいを包括的に支援できるシステムづくりが求められています。看護職が働く場は広がっており、人々を包括的に支援できるシステムを必要とする社会にあっては、本学部の卒業生のように看護師、保健師、助産師の複数の資格を持つ人材が、特に求められるようになっていると言っても過言ではありません。看護職は人々の健康と生活を守り支える、社会から強く求められている職業ですから、卒業生にはワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を図りながら、看護職としてのキャリアを生涯にわたり継続してほしいと願っています。

本看護学部では、学生委員会のキャリア支援担当の教員が中心となって、1年次から学生へのキャリア支援を行っています。支援の目標は、1年次は「卒業後、社会人として、また看護職として働いていくために、学生が幅広い教養を身につけることの意義を見いだせること」、2年次は「学生が将来に向けてキャリアプランを描き、今自分がなすべきことを考えられること」、3年次は「学生が看護職としての多様な働き方を知り、自己のキャリアを具体的に考えられること」、そして3～4年次には「学生が、卒業後の進路を決定するまでに必要となる活動を理解し、自己の目標に向かって活動できること」です。特に3年次の2月には『将来のキャリアを考える会』を開催し、看護学部同窓会の協力を得て、10名の卒業生に来ていただき、卒業後から現在までのキャリアについて話していただきます。例えば、平成28年度は、“複数の部署異動を経て本学附属病院で働き続ける卒業生”、“子育て中であり、途中で育児休暇をとり現在は短時間勤務を利用して病院で働き続ける卒業生”、“病院看護師の経験を経て、現在は市の保健師として働く卒業生”、“卒業後、養護教諭別科に進学し、現在は小学校の養護教諭として働く卒業生”、“卒業後から現在まで病院の助産師として働き続ける卒業生”、“看護師として働きながら本学大学院看護学研究科に進学した卒業生”等が話をしてくれました。学生にとっては、多様な働き方や看護職の可能性を知る機会であり、将来のキャリアをイメージすることに役立ち、毎年、大変好評です。

看護学部では、今後も在学中はもちろんのこと、卒業後もキャリア支援をしていきたいと思っています。同窓会、そして卒業生のみなさんには、今後ご協力の程、よろしくお願いたします。



### 学生生活のフォロー体制について

学生委員長・教授 大塚 公一郎

学生委員会は、学生の皆さんが健康で安全、快適な大学生活を送れるようにさまざまな支援を行っています。メンバーである教員が、事務職員と協力しながら、本学独自の制度を含めた奨学金貸与、女子学生寮、男子学生寮の運営、臨床心理士である非常勤カウンセラーを配置した相談ルームの調整指導など幅広い福利厚生分野について、企画、指導、助言をしています。また、学生を対象とした防災、避難訓練の企画、実施も行います。

ここ数年、特に充実してきた本委員会の活動として、在学生のキャリア支援があります。

看護学部の学生は、他学部の学生に比べて、就職先の選択などにおいて恵まれていると言われます。しかし、それだけに専門職として生涯にわたるキャリアを形成していくために、学生一人一人が将来の人生設計もふまえて、自分にふさわしい進路選択ができるように支援することが重要です。そのため、一年生の時から学部の全教職員さらには本学部同窓会、卒業生の協力を得て、授業やグループワークなどの形での具体的で実践的なキャリア支援の機会を定期的にもうけています。

また、本学部には学年担当アドバイザー連絡会という学生支援組織があります。私が総括責任者を兼任していますが、学年担当アドバイザーは、各学年約100人を専任教員3名が担当し、学業や人間関係の悩みなど学生生活のさまざまな問題の相談窓口となります。具体的で懇切、丁寧なアドバイスを随時受けることができるとの評価をいただいています。医療福祉系の学部一般に言えることですが、本学部における実習を含めた修学は、けっして容易なものではありません。本学部の学生は、看護職をめざすモチベーションの高さと努力、ご家族、友人などのサポートを受けて、さまざまな困難、ストレスを乗り越え、学年が進むにつれて見ちがえるように成長していきます。私たちもそのための一助となるべくこれからも学生の支援に取り組んでまいります。

本委員会は、学生自治会の支援もその目的のひとつとしています。近年、わが国の大学生一般に、自治会活動への参加が消極的になっているとの話を聞きますが、このことは憂慮すべきことに思われます。学生自治会は、大学生が、義務や責任をとまなかつつも、学生としての自由や権利を集団として実現するための組織であったからです。

このような活動に参加することは、理想であるかもしれませんが、否定してはならない、私たちのいまの社会を支える原理を実践的に学ぶことにつながるといっても過言ではありません。本学部の学生自治会は、学部ができてまもなく誕生したものの、ここ数年、活動が停滞し、ごく少数の役員に限られた活動をこなすだけという状態が続いていました。ところが、昨年度、高い志をもった一群の若者たちが、自治会役員に名乗りをあげ、自治会の改革、復興の機運が高まってきました。本委員会は、時代の風潮に流されない気概をもったこれらの若者たちに、大きなエールを送るとともに、後進が続くことを願っています。その際に、学生の自主的な運営を尊重することが大切だと思われます。

## いま 看護学部の現在

### 4学年を迎えて



4年 棚木 澪（神奈川県洗足学園高等学校出身）

怒涛の3年生の実習を終え、今春から大学最終学年を迎えました。3年生では大きく分けて臨床看護実習と地域における看護実習の2つがあり、2つの実習を通して多くの知識や技術を学べたと同時に、看護の力について再確認することができました。

臨床看護実習においては主に患者さんとその家族と、地域における看護実習においてはさまざまな生活背景の上で医療・福祉サービスを利用している住民の方々と、というように多くの方々と関わらせていただき、アセスメントをしたり、看護を実践したりと、様々な経験をしました。実習で実践した看護の中でも、自分が関わることで対象の方々の生活にプラスの影響をもたらすことができた実感できる場面が幾度かありました。医療に関わるのは人々の生活の中のほんの一部ですが、その限られた関わりの中でも看護という分野を通せば多くの人の人生を現状よりも豊かにする力添えができるということを実習を通して改めて実感しました。3年間の実習を終えて、改めて看護の力に大きな魅力を感じています。

実際に私が今後看護職として他者の人生と向き合い、より豊かにするような看護を考えていくために何が必要かを考えてみると、感性と想像力の二つがあがりました。それはさまざまな生活背景がある人々と可能な限り同じ目線に立つために必要不可欠であると考えたからです。感性や想像力は講義や実習だけでなく、部活動やサークル活動、他大学他学部の学生や社会人との交流、友人との旅行などといった機会を通して多くの価値観や考えに触れ、養うことができるのではないかと思います。また、他人の価値観や考えに触れることは自分自身を見つめなおすきっかけになる貴重な時間ともなります。看護に携わるものとして、また一人の人間として成長し、1年後、人生を豊かにできる看護職に近づいていけるように残りの大学生活1年間精進していきたいと思っています。



定期演奏会の様子



水泳部のみんなと

### 初めての病棟実習を終えて



3年 澁江 麗奈（埼玉県星野高等学校出身）

2年生では9月23日から10月24日にかけて日常生活援助実習と成人期継続療養看護実習がありました。

私が特に印象に残っているのは日常生活援助実習です。そこで受け持たせていただいた患者さんは治療の副作用で吐き気や頭痛、倦怠感の症状があり、体調が優れないことが多々ありました。しかし自分の身の回りのことは自分でできる人だったため、私を手助けする必要はありませんでした。そのため患者さんの表情や主観を基に、調子が良い時を見極め、リラクゼーション目的である足浴をしていました。初めは目の前にいる患者さんに対し、援助できることが本当に少なく、焦りや不安を感じていました。しかし教員や臨床指導者の方々、同じグループの仲間とカンファレンスを通し、見守ること、労うことも大切な看護だと気づかされました。患者さんは副作用がひどいときは十分に睡眠をとることで症状を緩和していたため、そのようなときは患者さんの邪魔にならないように見守っていました。また、患者さんは病気を治すためにつらい治療を続けています。そのことを当たり前と考えるのではなく、労うことが必要だとわかりました。

日常生活援助実習では私が援助できることは少なかったです。しかしそのおかげで「直接的なケア＝看護」ではなく、その人が求めるケアを行うことが看護なのだと改めて気付きました。しかし患者さんの欲求を知り、それがどの程度満たされているのか観察ことは容易ではありません。そのため、できるだけ患者さんのニーズに合うようなケアを提供できるように、知識を深めていきたいと考えました。

## 入学から1年を振り返って



2年 梅宮 大樹（福島県立葵高等学校出身）

私が看護師を目指したいと思ったのは、中学校3年生の頃です。その頃はまだ「自治医科大学」の存在が分かっていませんでした。高校に入ると、進路指導担当の部活の顧問から「自治医科大学」についての話を聞き興味を持ち、入学したいと思うようになりました。入学前、私は男性の看護師や看護学生が少ないという現状があることを知っていたため、大学生活をうまくやっていけるかどうかなどの心配や不安がありました。しかし、入学してみると授業やグループ活動等でお互いに支えあうなど非常に充実した大学生活を送っています。

1年次には教養を中心とする科目と看護の土台となる基礎知識を学ぶ科目があり、幅広い分野について学ぶことができました。特に看護の基礎を学ぶ科目では授業を通して、入学前に自分が思っていた看護師像とは少し異なる部分もあり、学べば学ぶほど「看護のあり方」について理解が深まりました。6月には「対象の理解実習」という大学での初めての实習では、患者さんとお話しをさせていただくことで看護師としての基本である「コミュニケーション」についてのコツや工夫を学ぶことができた非常に有意義な実習になったと思います。自分にとってこの1年は「理想の看護師像」を学んだことを生かして創り上げることができた1年になったと思います。

学習面以外においては、私はRoute 4 Jazz orchestraというジャズの演奏を楽しむ部活動に入部し、トランペットを演奏しています。部活動では普段あまり関わることのない医学部生との交流もあり、様々な演奏会に向けて日々の練習に取り組むことなどとても充実した生活の一部になりました。

## 平成29年度 新入生交流バーベキュー大会

平成29年4月に入学した看護学部16期生105名と大石理事長、永井学長および教職員が参加して、新入生交流バーベキュー大会が去る5月10日に開催されました。当日の天気予報は雨でしたが、16期生の持つ運気が雨雲を吹き払ってくれました。



これから頑張って火を起こします



当日の会場の風景



肉と野菜をバランスよく焼いています



なかなか炭に火が付きません

## 南河内第二中学校の体験学習

平成28年6月24日および7月1日に南河内第二中学校1学年116名と教員6名を看護学部学習室へお招きして、体験学習が開催されました。

### 体験学習に参加して

平成28年度卒業（12期生）落合 純華（栃木県宇都宮短期大学附属高等学校出身）

4年次前学期に行う公衆衛生の授業の中に、中学生と交流する授業があります。初めは中学生、4年生共に緊張している様子でしたが頭を使いながら体を動かすゲームなどを行っているうちに緊張がほぐれている様子がありました。このような中で4年生が脈拍や血圧の正しい測定の仕方、聴診器の使い方などを教える演習がありました。その際にただ教えるだけでなく、中学生同士や4年生の腕をモデルにしながら一緒に行うことでお互い学びを深めることができたのではないかと感じました。実技演習後は、4年生から中学生に対し医療に関するクイズを出す時間がありました。中学生達は、三大栄養素とは何かなどのメジャーな問題に対しては直ぐに答えることができていましたが、手洗い後の適切な消毒の仕方など普段何気なく実施している感染対策に関連したクイズに関しては、中学生同士で話し合い知識を確かめ合いながら答えを出そうとしている様子がありました。また、中学生から4年生に向けて質問を行う場面もありました。中学生からは、「看護師を目指した理由」「大学生活の中で一番大変だったこと」などの質問があり、4年生達は初心を思い出すと共に自分自身と向き合うことや大学生活を振り返っていたのではないかと思います。

この体験学習を通して、見る・聞くというだけでなく医療に関して勉強をしている看護学生から脈拍や血圧測定などを直接教わることや一緒に体験すること、感染症対策など覚えて欲しいことをクイズ形式として提供し共に確認する機会があることで、知識の再確認や知識をより深めることができたのではないかと感じました。また、中学生との交流を行ったことで、看護師を目指すきっかけや大学生活を振り返るきっかけとなり、様々なことを学び経験してきたことを改めて実感すると共に、「自分の目指す看護師とは何か」をもう一度考えることができた良い時間でもあったと私は思いました。



優しい眼差しで中学生を見守る春山学部長



モニター画面を見ながら、中学生を指導する学生



中学生にマンシットを巻く落合純華さん



新旧体操のお姉さん? 対決!

## 平成28年度自治医科大学卒業式

平成29年3月3日（金）、地域医療情報研修センター大講堂において、多数の来賓、保護者の出席のもと、平成28年度自治医科大学卒業式が厳かに挙行されました。（医学部第40期生100名、看護学部12期生101名）



## 謝 恩 会

平成29年3月3日（金）、卒業式に引き続いて記念棟12階において、謝恩会が開催されました。



## 看護学部10周年記念同窓会

平成28年10月22日記念棟12階において、看護学部10周年記念同窓会が開催されました。初代学部長である野口美和子先生、前学部長である水戸美津子先生、そして現学部長である春山早苗先生を来賓にお招きし、卒業生は全国から100名以上が駆けつけてくれました。当日は歴代学部長のお話の他、大抽選会も開催されました。豪華賞品の中にはiPadやAppleウォッチなどもありました。



前列（左）春山先生（中）野口先生（右）水戸先生  
後列（左）江角同窓会長（右）塚本同窓会副会長



ご挨拶される野口先生



### 看護学部10周年記念同窓会のご報告と同窓会について

看護学部1期生 岡野 朋子（基礎看護学 教員）

平成28年10月22日に看護学部10周年記念同窓会を開催することができました。当日は初代学部長の野口美和子先生、先代の水戸美津子先生、そして現学部長の春山早苗先生をお招きいたしました。同窓生は100名ほど集まり、同級生同士、また、お世話になった先生方と当時の話や近況報告等で話も盛り上がり、盛大な同窓会となりました。

同窓会は現在、看護学部卒業生、看護学研究科の修了生、そして看護学部の先生方に支えられ成り立っています。今後も同窓生が集まれるような会を開催していけるよう、役員の方々とも協力していきたいと思っております。

同窓会の行事として、年に一度、総会を開催しております。年度の会計や活動の報告をしております。同日に「看護フォーラム」も開催しており、その時々に合わせて演者をお招きし、講演会や勉強会等を行うことになっております。ぜひ、学部生、同窓生ともにお越しくください。

同じく年に一度開催される行事としては、2月に3年生に向けて看護学部と共同開催している、「キャリアを考える会」（キャリアガイダンス）があります。例年、10名程度の卒業生にきていただき、5つほどのブースに分かれて座談会の形式で行っています。看護学部が創設されて16年が経過し、卒業生はさまざまなキャリアを積んでいます。平成28年度は、入職して3年目のキャリア、ライフワークバランスをとりながらの仕事、10年目のキャリア、主任、地域で活躍する保健師・養護教諭、といったブースに分かれました。このように様々な形で活躍している先輩方を見る学生の眼差しは輝いておりました。平成29年度からは3年生だけではなく、同窓生や他学年の学部生にも来ていただけるよう、外部にも公開していくこととなりました。「看護フォーラム」、そして「キャリアを考える会」（キャリアガイダンス）への皆さんのお越しをお待ちしております。詳細は年に一度発刊されます同窓会誌をご覧ください。



水戸先生による乾杯



同窓会役員による自己紹介



久々の顔合わせとなった一期生のみなさん

## 卒業生と在学生との対談

ビタミンN初の試みとして、活躍している卒業生の方を対象に在学生との対談を企画しました。今回は看護学部一期生であり、同窓会長でもあり、現在は地域看護学の教員をなさっている江角伸吾さんにお話を伺いました。



卒業生 江角 伸吾さん

看護学部1期生、同窓会会長  
現在は地域看護学教員



インタビュアー

3年 高久 葵（左：栃木女子高等学校出身）

3年 猪熊七海（右：立正大学附属立正高等学校出身）

ともに14期生

テーマ これまでの10年、これからの10年

### 新入生交流バーベキュー大会のルーツ

高久・猪熊：今日はよろしくお願ひします。

江角：よろしくお願ひします。

高久：先生は看護学部の一期生ですが、開校当時の看護学部はどんな感じだったのですか？

江角：1期生が薬師祭で作ったポロシャツのロゴが「We are pioneers!」でした。看護学部は新しく自分たちで作っていきこうという雰囲気に満ち溢れていました。「新しいということは、自分たちが土台を作っていくことだ。」ということをお初代学部長の野口先生から言われたのを覚えています。

猪熊：何か印象に残っていることはありますか？



江角：当時は自由にアイデアを先生にぶつけることができました。例えば、看護基礎セミナーは「自分たちの発表会をどこか学外で行いたい。」と教員に学生皆で伝えたところ、自治医大の日光研修所において宿泊で行うことができました。

猪熊：1年生の時に私たちも看護基礎セミナーがありましたけど、今と少し違いますね。

江角：そうですね。それと先日、新歓バーベキューがありましたけど、今と当時では全然違います。

高久：何が違うのですか？

江角：今は学校行事となりましたが、最初は1期生の4～5名がバーベキューをやろうと言い出したのがきっかけでした。「BBQをやるなら、先生方も呼ぼう」という話になり、食材を購入するのに先生方に寄付を募ったのが始まりでした。

猪熊：それが新生交流バーベキュー大会のルーツですね。

江角：そう。だから食材も自分達で購入しに行きました。今となっては知らない先生も多いと思いますが（笑）。

高久・猪熊：はじめて知りました（笑）。

### 大宮医療センター（現：さいたま医療センター）時代から大学院進学

高久：看護学部を卒業された後、先生は大宮医療センター（現：さいたま医療センター）に看護師として勤務しておられますが、どんな感じの看護師でしたか？

江角：う～ん。優秀な看護師ではなかったと思います。先輩や師長さんに指導されることも多かったですね。

猪熊：看護師として勤務された後、今度は大学院へ進学され、博士号を取得されたと伺いました。進学されたきっかけは何だったのですか。

江角：学生の時にピアカウンセリング（ピアエデュケーション）と出会い、その面白さを知りました。ピアカウンセリングは「仲間から仲間へ」情報を伝えたり、共有することを通して、互いを高めていく手法です。看護師をしていた時に「世界でやってみないか」という誘いをいただき、大学院への進学を決めました。

高久：先生の博士論文の研究テーマについて簡単に教えてください。海外によく調査に行かれていらっしゃるようですが。

江角：海外にはよく行っています。博士論文は今話していたメキシコ合衆国でのピアエデュケーションをテーマにしました。ごく簡単に話をすると、高校生年代でピアリーダーとして養成された若者がどのように成長したのか、その成長したピアリーダーが地域社会にどのような影響を及ぼしたのかを明らかにしました。すると同世代への活動だけでなく、父親や母親などの保護者や近所の大人にも自分たちの経験を語ることをしており、地域社会へ影響を与えていることが分かってきました。

### これからの看護学部

高久・猪熊：最後にこれからの看護学部と在校生のみなさんに何を期待しますか。

江角：自分のやりたいことを明確にして、それに向かって努力してほしいと思います。そして、人脈を大切にしてほしいです。大学時代を共に過ごした人たちは10年たっても大切な仲間です。楽しいことやつらいことを一緒に乗り越えた仲間ですから、いつまでも自分の気持ちをオープンにできます。

猪熊：自分たちも実習をみんなで乗り越えたいと思います。そして、卒業してからもみんなと再会できるように友達を大切にしたいと思います。

高久：それでは本日はお忙しいなか、ありがとうございました。

江角：こちらこそありがとうございました。



後進の先生に指導する江角さん



同窓会長としてスピーチをする江角さん

## くすし 薬師祭の紹介

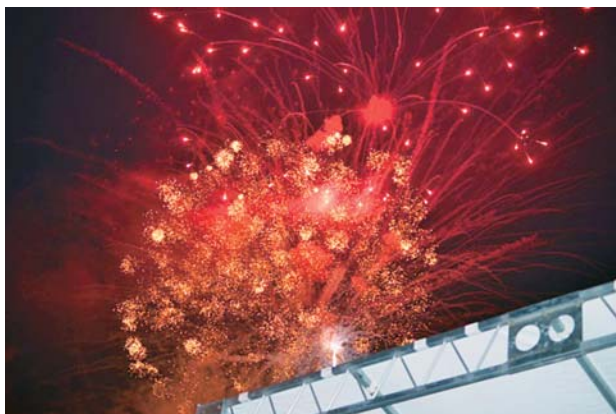
3年 富田 優希乃（茨城県立下妻第一高等学校）



私は、薬師祭副実行委員長として薬師祭の運営に携わりました。薬師祭とは、医学部生と看護学部生が主体となって作り上げる、自治医科大学の学園祭です。昨年、第45回薬師祭のテーマは「烈華の如く」でした。このテーマには私たち学生の、薬師祭に対する熱い思いと、主催する学生をはじめ、参加して下さる地域の方々にも笑顔の華が咲きますように、という願いが込められています。

薬師祭では実行委員会が中心となり、学内・学外を問わず、趣向を凝らした模擬店や展示、ダンスやJFCによるパフォーマンス、有名アーティストによるライブ、子ども向けのブースや遊具、バザー、花火などで連日賑わいを見せます。また、医療機器を用いた医師体験、妊婦・高齢者体験、血圧測定や献血体験など、医療系大学ならではの企画も数多くあり、学生が演習や臨床実習で得た知識や技術を発揮し、地域の方々が医療に触れる機会があることも魅力の一つと言えます。そして、毎年最終日の夜に行われる医学部・看護学部の最高学年によるステージは、最後の薬師祭にぶつける思いにとっても熱があり、圧巻のパフォーマンスです。

ここで紹介させていただいたのは、薬師祭の魅力のほんの一部にすぎません。薬師祭では、誰もがイベントに華をそえる主人公です。実行委員会の一員として、学生の一人として、地域住民として、老若男女それぞれの楽しみ方があります。まずは参加しないと何も始まりません！是非とも薬師祭に足を運んでみてください。私たち実行委員会一同、参加して下さる全ての人にとって最高の思い出となることをお約束いたします。皆様の来場を心からお待ちしております。



中夜祭恒例の打ち上げ花火



最高に盛り上がった4年生最後のステージ



ダンス同好会の仲良し2人組



4年生による学年ダンス

### 第46回 薬師祭の ご案内

自治医科大学学園祭「第46回薬師祭」が10月6日（金）～8日（日）の3日間、自治医科大学キャンパスにて開催されます。今年のテーマは、「笑顔満載～四六夢中になれ！～」です。薬師祭に来てくださる方をはじめ、薬師祭に関わる全ての方が笑顔で満ち溢れるお祭りを創りたいという想いがこめられています。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



### 退職するにあたって

看護学部名誉教授 渡邊 亮 一

平成29年3月31日をもって、看護学部を定年退職することになりました。看護学部が開設された平成14年4月から勤務していましたので、ちょうど15年を看護学部で過ごしたことになります。

看護学部では、主として「情報学」、「統計学」、「公衆衛生学（疫学）」などの講義を担当していました。これらの科目は、看護師国家試験には出題されませんが、保健師国家試験には出題され、必修科目となっています（現在、「情報学」は必修科目とはなっていません）。そのため、できる限り「わかりやすく」を目標に授業を行ってきました。しかしながら、数字を扱う学問であり、学生の皆さんにとっては、わかりやすい授業とは言えなかったかもしれません。これら以外にも、セミナーや実習など、数多くの科目を担当しました。

教育とともに力を注いだのは、入試関係の委員会、国家試験対策の委員会です。国家試験対策委員会については、キャリアの約半分の8年程度の期間、国家試験対策の委員長を務めさせていただきました。国家試験対策委員長を務めていたときは、毎年「合格率100%」を目指して、国家試験対策委員の先生方のご協力をいただきながら、いろいろな国家試験対策の事業（活動）に取り組みました。しかし、合格率100%を達成することはなかなか難しく、残念ながら、在任中に看護師・保健師・助産師国家試験の合格率100%を同時に達成することはできませんでした。しかしながら、私にとってわずかな救いは、合格率が全国平均を下回ったことはほとんどなかったということです。

在職中、私は、廊下や談話室等で学生さんと出会ったときは、なるべく声をかけるようにしていました。特に、痩せた、太った、顔色が悪くなった、表情が暗くなったなど、変化が気になる学生さんには、声をかけていました。このようなことも手伝ってか、私の研究室には、相談にくる学生さんが少なくありませんでした。相談の多くは重大なものではありませんでしたが、なかには精神的な病気の相談などもありました。病気の程度が重いと、退学などの結果になることもあり、たいへん残念な思いをしたことも少なからずあります。

私は、15年間の在職中に1,200名余の卒業生の方を見送ったことになりますが、卒業生の方のなかには、現在は看護職として就業していない人もいます。そのような人も含め、私は、卒業生の方それぞれが満足できる充実した幸せな人生を送ってくれることを心から願っています。

末筆ですが、現在看護学部在籍中の学生の皆さんならびに保護者の方々、教職員の皆さん、自治医科大学看護学部のますますの発展と、皆様のご健康ならびにこれからのご活躍を心からお祈り申し上げます。



指導中の風景



最後に渡邊先生が若かりし頃の秘蔵写真を公開!

## 平成29年度 年間スケジュール

前 学 期						後 学 期					
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
前学期授業開始(4日)	入学式(7日) 春季休業(29日～5月7日)	創立記念日(14日) 新入生交流バーベキュー大会(10日)	オープンキャンパス(20日)	オープンキャンパス(22日) 1・2年次定期試験(18日～25日) 4年次定期試験(13日～14日)	オープンキャンパス(18日) 夏季休業(8月2日～9月24日)	再試験(4日～6日) 後学期授業開始(25日)	薬師祭(学園祭6日～8日)	冬期休業(12月23日～1月3日)		再試験(23日～26日) 1・2年次定期試験(5日～9日)	卒業式(2日) 学年末休業(17日～)
1年	↔ 「対象の理解実習」 6/5～6/9										
2年				↔ 「日常生活援助実習」 「成人期継続療養看護実習」 9/22～10/5	↔	↔ 「日常生活援助実習」 「成人期継続療養看護実習」 10/10～10/23					
3年	↔ 前学期実習(5科目) 5/8～7/21							↔ 「後学期実習」(3科目) 11/20～2/16			
4年			↔ 「総合実習」 7/24～8/4								
全体	↔ 春季休業 4/29～5/7			↔ 夏季休業 8/2～9/24				↔ 冬季休業 12/23～1/3			↔ 学年末休業 3/17～

## 看護学部 学科目別教員一覧 (平成29年5月1日現在)

学科目	職位	氏名	備考	学科目	職位	氏名	備考
看護基礎科学	教授	大塚 公一郎	学生委員長 学年担当アドバイザー総括	母性看護学	教授	成田 伸	
	准教授	北田 志郎	3学年担当アドバイザー		教授	野々山 未希子	国家試験対策委員長
	准教授	平尾 温司			准教授	角川 志穂	
	講師	鹿野 浩子		講師	望月 明見		
	講師	関山 友子	1学年担当アドバイザー	小児看護学	教授	横山 由美	
基礎看護学	教授	本田 芳香		講師	田村 敦子	2学年担当アドバイザー	
	准教授	小原 やよい	1学年担当アドバイザー	助教	手塚 園江		
	講師	飯塚 由美子	3学年担当アドバイザー	成人看護学	教授	中村 美鈴	
	講師	福田 順子			准教授	佐藤 幹代	2学年担当アドバイザー
	講師	八木 街子			講師	中野 真理子	
	助教	岡野 朋子			講師	長谷川 直人	
助教	湯山 美杉	1学年担当アドバイザー	講師	藤巻 郁朗			
地域看護学	教授	春山 早苗	看護学部長	助教	佐々木 彩加	2学年担当アドバイザー	
	准教授	塚本 鈴木 久美子		教	古島 幸江		
	講師	島田 裕子	4学年担当アドバイザー	老年看護学	教授	宮林 幸江	
	助教	青木 さぎ里			准教授	川上 勝	4学年担当アドバイザー
	助教	江角 伸吾	3学年担当アドバイザー		准教授	浜端 賢次	
精神看護学	助教	土谷 ちひろ		講師	清水 みどり		
	教授	永井 優子	教務委員長				
	教授	半澤 節子	広報委員長				
	講師	石井 慎一郎					
	助教	佐藤 貴紀					
	助教	路川 達阿起	4学年担当アドバイザー				

# 平成28年度 学校法人自治医科大学決算について

5月29日(月)に開催された理事会及び評議員会において、平成28年度学校法人自治医科大学決算が承認されました。決算の概要は次のとおりです。

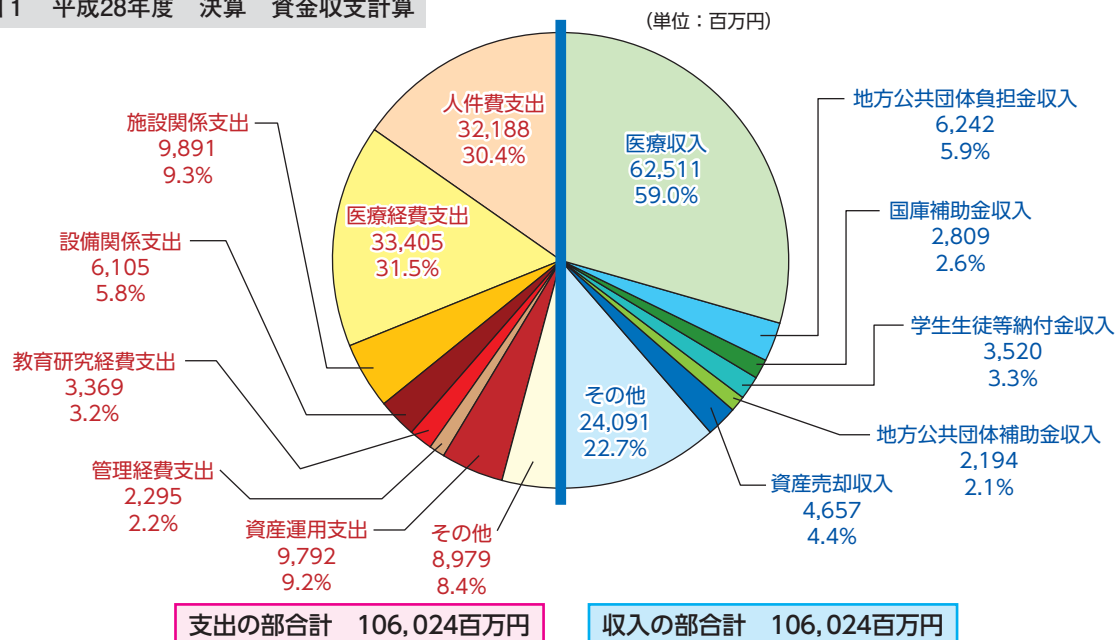
※財務状況等の詳細は、大学ホームページ [http://www.jichi.ac.jp/gaiyo/public\\_info/index.html](http://www.jichi.ac.jp/gaiyo/public_info/index.html) の「情報公開」でご覧になれます。

## 1. 平成28年度 学校法人自治医科大学決算について

### ・資金収支計算書(別図1)

1年間に実際に収入又は支出した金額(現金ベース)を主として科目別に分類して表した決算書です。

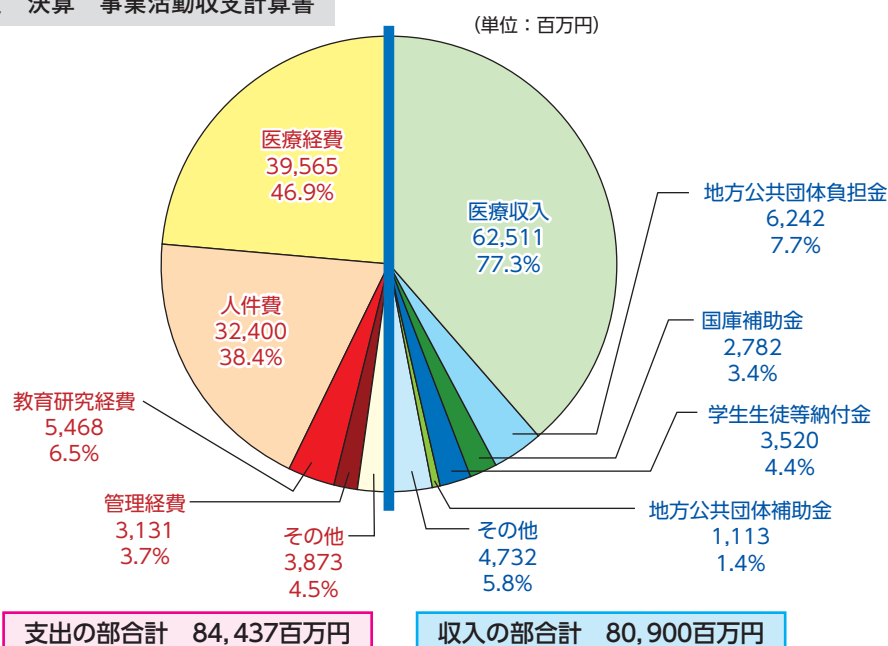
別図1 平成28年度 決算 資金収支計算



### ・事業活動収支計算書(別図2)

企業会計で用いられている損益計算書と類似しており、学校法人の経営状況を表した決算書です。

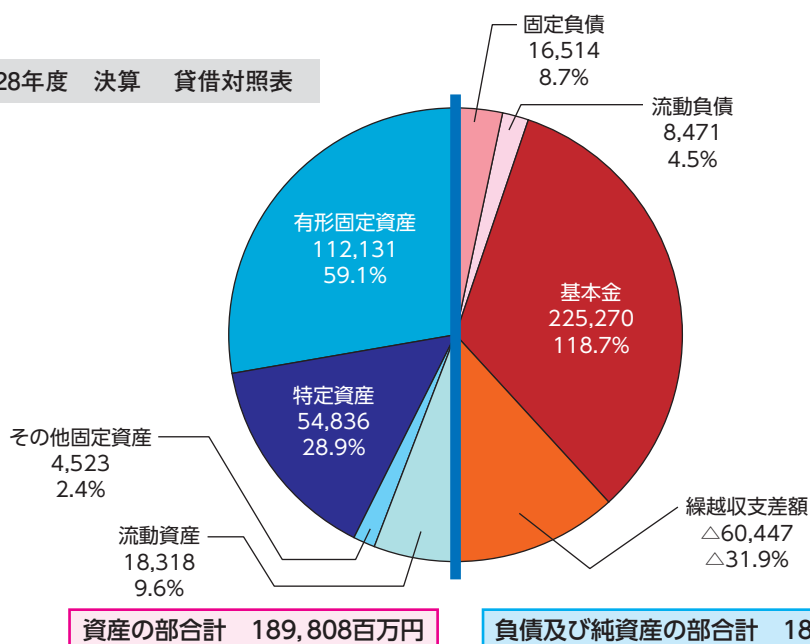
別図2 平成28年度 決算 事業活動収支計算書



・貸借対照表（別図3）

28年度末時点での固定資産や現預金、負債等の保有状況を表した財務書類です。

別図3 平成28年度 決算 貸借対照表



## 2. 平成28年度事業の概要について

看護学部は、4年間の教育課程を通じて、豊かな人間性を涵養することに力を注ぎ、高い資質と倫理観を有し高度医療と地域の看護に貢献できる看護職者を育成するため、次の取組を実施しました。

### ① 学生教育に関すること

- ・これまでの看護師・保健師・助産師の国家試験における高い合格率を維持するために、国家試験を受験する4年生を対象に国家試験対策ガイダンスを4月に、3年生を対象に11月に開催しました。併せて、4年生を対象に国家試験対策ゼミを計21回開講しました。
- ・実習教育の充実のために、一次救命処置研修会等を実施し、メディカルシミュレーションセンターを効果的に活用しました。
- ・ブータン医科大学に教員2名、学生10名を8日間派遣し、積極的な大学間交流を実施しました。

### ② 学生の受入れ・支援に関すること

- ・学生生活支援に係る看護学部独自の奨学金制度や看護学生寮等をアピールした広報等、オープンキャンパスや進学説明会において効果的かつ重点的な広報活動を行い、志願者確保に努めました。
- ・相談ルーム便りを定期的に発行し、また、学年担当アドバイザーなどの教員からも看護学部生、看護学研究科大学院生に対する学業・生活・進路などの相談ができる相談ルームの存在を学生に知らせ、学生への周知を徹底しました。

### ③ 研究に関すること

- ・ブータン医科大学との共同研究について、研究課題「優れた看護専門職育成と高齢化社会への看護専門職としての対応のための基礎資料収集ツール開発」を決定し、研究活動を開始しました。
- ・看護学部の共同研究費による教員と看護職等との共同研究を11件実施しました。
- ・競争的資金獲得を含め研究活動の情報交換を目的に、教員研究ミーティングを開催しました。

### 編集後記

今回は、看護学部10周年記念同窓会の様子をお届けしました。中でも歴代の学部長が一枚に収まった写真は、過去最高の一枚であると思います。この感動をみなさまにお伝えすべくビタミンN14号を作製しました。みなさんのご感想をお聞かせ下さい。(担当 平尾、望月、森下)

ビタミンN 第14号

発行日 平成29年7月10日

発行 自治医科大学看護学部

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-159

T E L 0285-58-7409 (看護総務課)

E-mail vitaminen@jichi.ac.jp